

もの言う牧師のエッセー 第98話

「A・ロッドよ、お前もか！」

1998年にマーク・マグアイアがサミー・ソーサとの激しい本塁 打争いを制し、最終的には1961年のロジャー・マリスのシーズン61本塁打の記録を大きく塗り替える70本塁打を記録した時、誰もが「スゴイ」と思った。その後バリー・ボンズが2001年にシーズン73本の本塁打を打った時、誰もが「アレ？」と思った。あまりにもホームラン記録が短期間に出過ぎた。そして2003年夏の「バルコ・スキャンダル」で多数のメジャーリーガーの薬物使用が明るみに出た後、2007年にボンズがハンク・アーロンの持つメジャー記録を塗り替え756号を打った時には、もはや誰も関心を示さなくなってしまった。

モヤモヤしたメジャー記録にうんざりするかの様に、世間は2005年にメジャーリーグ史上初めて20代で通算400本塁打を達成し、さらに2007年に最年少500本塁打を記録したA・ロッドことアレックス・ロドリゲスに注目し始める。彼がボンズの記録を“フェア”に抜く期待が高まる中、彼は同年FA権を取得、10年契約3億ドルでヤンキースと契約更新。今に至るも13年連続メジャー最高年棒、今年だけで2900万ドルを稼ぎ、ヤンキース不動の4番であるばかりか、「史上最強打者」とまで言われてきた。しかし今年8月、メジャーリーグ機構は彼にもまた、禁止薬物規定違反で処分を下すことになってしまった。 聖書は言う。

「競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただ一人だ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。」

1コリント人への手紙9章24節

と。つまり“賞を受けられるよう走る”のが肝要であり、その厳しい条件の中フェアにプレーするからこそ人は感動する。たとえ負けても、これを徹底的に実践したのがキリストである。神でありながら人としてフェアに生き、しかも誰に顧みられることなく十字架で壮絶に散った。クリスチャンというのはフェアな人間ではない。彼に倣ってフェアに生きようとする人間である。

2013-9-13

